

平成29年度 (公財) 日本中学校体育連盟バレーボール競技部における 6人制ルールの取り扱いについて

<<<<< 『平成29年度 6人制ルールの取り扱い』について、3月19日の審判規則委員会合同会議において、FIVB ルールが改正された点及び平成28年度国内競技会の反省点から、以下の点について取り扱いを統一することを確認しました。>>>>>

これに基づき、「(公財)日本中学校体育連盟バレーボール競技部」のルール取り扱いについて、協議・検討を加え、「今年度の取り扱い」を決定しました。

1 競技参加者の行為 (PARTICIPANTS' CONDUCT) に関する事項

20.1 スポーツマンにふさわしい行為 (SPORTSMANLIKE CONDUCT)

20.1.1 競技参加者は、公式バレーボール規則に通じていなければならない。また、それを忠実に守らなければならない。

20.1.2 競技参加者は、審判員の決定に対し、スポーツマンらしく反論せず、受け入れなければならない。疑問がある場合には、ゲームキャプテンを通してのみ説明を求めることができる。(規則5.2.1.2.)

20.1.3 競技参加者は、審判員の決定に影響を与えたり、またはチームの反則を隠したりする行動や態度は避けなければならない。

20.2 フェアプレー (FAIR PLAY)

20.2.1 競技参加者は、審判員だけでなく、他の役員、相手チーム、チームメイト、さらに観衆に対しても、フェアプレーの精神で敬意を示し、礼儀正しく行動しなければならない。

(注)

- 1 競技参加者が、規則20に反した場合、警告が与えられる。繰り返した場合は、反則が与えられる。
- 2 競技参加者が、審判員に向かって判定に対して執拗に抗議するような態度をとった場合、警告が与えられる。繰り返した場合は、反則が与えられる。
- 3 監督が副審や記録員に話しかけることができるのは、リベロの再指名の時や得点が正しくない時などの声掛け程度のものであり、説明を求めたり、長く話しかけるようなことはできない。
- 4 プレーイングエリア内で「ガム」を噛んだり、帽子をかぶることは許されない。
- 5 試合終了後、監督・主審・副審はフェアプレーの精神でお互いに「握手」を交わす。

中体連も同様に扱う。

※ 軽度な不法な行為に対する警告は、その後の再発を防ぐためのものである。躊躇することなく、早い段階で、ステージ1または2を与えるべきである。

- 5 試合終了後の監督・主審・副審の握手については、これを奨励する。強制はしない。

ただし、全国大会の代表者会議の席上では、この取り扱いの趣旨を監督に伝え協力を要請する。

2 プレーの構造 (STRUCTURE OF PLAY) に関する事項

7.3 スタートラインアップ (TEAM STARTING LINE-UP)

7.3.5 コート上の選手のポジションが、ラインアップシートと違う場合には、次のように対処する：

7.3.5.2 セット開始前、そのセットのラインアップシートに記入されていない選手がコート上にいることが発見された場合は、この選手はラインアップシートに従い変更されなければならない。この場合には制裁はない。

7.3.5.3 しかし、監督がそのようなラインアップシートに記入されていない選手をそのままコートでプレーさせたい場合には、監督は正規の選手交代を、該当するハンドシグナルを用いて要求する必要がある、記録用紙に選手交代が記録される。

もしもラインアップシートと選手のポジションの違いが、もっと遅い時点で発見された場合は、間違いのあったチームは、正しいポジションに戻さなければならない。相手チームの得点はそのまま有効で、さらに1点と次のサービスが与えられる。間違いをした時点から発見されるまでに、間違いのあったチームが得たすべての得点は取り消される。

7.3.5.4 記録用紙のチーム選手欄に登録されていない選手がコート上にいることが発見された場合は、相手チームの得点はそのまま有効で、さらに1点と次のサービスが与えられる。間違いのあったチームは、登録されていない選手がコートに入った時点から得たすべての得点とセット（必要であれば0-25として）を失い、修正したラインアップシートを提出し、登録されていない選手がいたポジションに、登録されている選手を新たにコート上に送らなければならない。

7.5 ポジションの反則 (POSITIONAL FAULT)

7.5.1 サーバーによりボールが打たれた瞬間に、いずれかの選手が正しいポジションにいない場合は、そのチームはポジションの反則をしたことになる。選手が不法な選手交代をしてコート上にいて、試合が再開された場合は、不法な選手交代によるポジションの反則とみなされる。(規則 7.1、7.4、15.9)

7.7 ローテーションの反則 (ROTATIONAL FAULT)

7.7.1 サービスが正しくローテーション順に行われなかったとき、ローテーションの反則となる。その場合は、次のような順序の結果となる：

7.7.1.1 記録員がブザーによって試合を止めた場合、相手チームに1点と次のサービスが与えられる。もしも、ローテーションの反則により始まったラリーが完了した後に、そのローテーションの反則が指摘された場合は、そのラリーの結果に関係なく、相手チームに1点のみが与えられる。(規則 6.1.3)

7.7.1.2 反則をしたチームのローテーション順は正しく直される。(規則 7.6.1)

(注)

- 1 セットの開始前、ラインアップシートに記入されていない選手がコート上にいる場合
 - ① 副審はラインアップシートを監督に示し、記入されていない選手がコート上にいることを告げ、どちらの選手がスターティングメンバーかを尋ねる。
 - ② 監督がラインアップシートに記入されていない選手をコートに残すことを要望する場合は、該当するハンドシグナルを示し正規の選手交代を要求する。副審はハンドシグナルを示しながらホイッスルをする。記録員は正規の選手交代として記録をする。この際、ラインアップシートどおりの選手をコートに戻す必要はない。
 - ③ 監督が提出したラインアップシートどおりの選手をスターティングメンバーとすることを要望する場合は、その場で選手を入れ替えさせる。この場合には制裁はない。
 - ④ 副審は両チームのラインアップを確認後、主審にシグナルを示し、ゲームが開始される。
- 2 不法な選手交代によるポジションの反則やローテーションの反則により始まったラリーが完了した後にその反則が指摘された場合は、ラリーの結果をキャンセルし、相手チームに1点と次のサービスが与えられる。また、間違いがもっと遅い時点で発見され、間違いをした時点が明らかな場合は、発見されるまでに、間違いのあったチームが得たすべての得点は取り消される。

中体連も同様に取り扱い。

3 ネット付近の選手 (PLAYER AT THE NET) に関する事項

11.3 ネットへの接触 (CONTACT WITH THE NET)

11.3.1 ボールをプレーする動作中の選手による両アンテナ間のネットへの接触は反則である。

ボールをプレーする動作の中には、(主に) 踏み切りからヒット (またはプレーの試み) と安定した着地、新たな動作への準備が含まれる。

11.3.2 相手チームのプレーを妨害しない限り、選手は支柱、ロープ、またはアンテナの外側にあるネットや他の物体に触れてもよい。

11.3.3 ボールがネットにかかり、その反動でネットが選手に触れても、反則ではない。

11.4 ネット近くの選手の反則 (PLAYER'S FAULTS AT THE NET)

11.4.1 相手チームのアタックヒットの前、またはその最中に、選手が相手空間でボールもしくは相手選手に触れたとき。(規則11.1.1)

11.4.2 選手がネットの下から相手空間に侵入し、相手チームのプレーを妨害したとき。(規則11.2.1)

11.4.3 選手の片方の足(両足)が相手コートに完全に侵入したとき。(規則11.2.2.2)

11.4.4 プレーに対する(主な)妨害(規則11.3.1)：

- ・ボールをプレーする動作中に、両アンテナ間のネット、またはアンテナに触れること。
- ・支持を得たり、身体を安定させたりするために両アンテナ間のネットを使うこと。
- ・ネットに触れることにより相手チームに対して自チームが有利な状況を不正につくり出すこと。
- ・相手チームによる正当なボールへのプレーの試みに対し、それを妨害する動作をすること。
- ・ネットをつかんだり、握ったりすること。

ボールがプレーされているときに、ボールの近くにいるいかなる選手やボールをプレーしようとしている選手自身も、たとえボールに触れなくてもボールをプレーする動作中とみなされる。

しかし、アンテナ外側のネットに触れることは反則ではない。（規則 9.1.3 を除く）

(注)

- 1 「ボールをプレーする動作中」とは、ボールをプレーする選手（試みも含む）の動作の開始から終了までの一連の動きと考える。アタックやブロックをする選手の場合、「試みも含む動作の開始（助走も含む）から安定した着地の動作の終了まで」を一連の動作とする。例えば、バックアタックの着地後に勢いが余り、ネットに触れるケースは反則となる。
- 2 「新たな動作への準備が含まれる」とは、一つの動作の終了時には次のプレーを予測した動作が含まれている。例えば、ブロックのときにひねりながら着地するときに、ネットに触れるケースは反則となる。
- 3 速攻や時間差攻撃などで、どこにトスが上がるか判断できないタイミングで起きるネットへの接触は反則とするが、明らかに離れた位置にトスが上がった場合の接触は反則ではない。
- 4 アタックやブロックなどの動作が完全に終了した後、ボールが近くでない場合の振り向き時の接触は反則ではない。
- 5 プレーの終了後にネットにぶら下がったり、寄りかかったりする動作も反則である。
- 6 髪の毛がネットに触れたとき、ボールをプレーする相手に影響を与えたり、ラリーを中断させることが明らかな場合は反則とする。

中体連も同様に扱う。

4 サービス (SERVICE) に関する事項

12.3 サービスの許可 (AUTHORIZATION OF THE SERVICE)

主審は、両チームがプレーする準備ができ、サーバーがボールを持っていることを確認した後に、サービスを許可する。

12.5 スクリーン (SCREENING)

12.5.1 サービングチームの選手は、1人または集団でスクリーンを形成し、サーバーおよびサービスボールのコースが相手チームに見えないように妨害をしてはならない。

12.5.2 サービスが行われるとき、サービングチームの1人または複数の選手が集団で腕を揺り動かし、跳びはねたり、左右に動いたりして、あるいは集団で固まって立ち、ボールがネット垂直面に到達するまでにサーバーとボールのコースの両方を隠すことでスクリーンが形成される。

(注)

- 1 ラリー終了のホイッスルから次のサービス許可のホイッスルまでの時間を、およそ8秒のテンポで行う。
- 2 ラリー終了のホイッスルの後、選手交代やワイピングがない場合、およそ8秒が経過すればサーバーがサービスゾーンでボールを保持していることを確認し、サービス許可のホイッスルをする。
- 3 低いサービスボールが、形成されたスクリーンの上を通過しネット垂直面を通過したときに、スクリーンの反則が成立する。
- 4 スクリーンを形成していることが明らかな場合、チームに対して注意が与えられる。再発した場合は、マイナーミスコンダクトとして罰則を適用する。

中体連も同様に扱う。

上記1、2について

*5 (3) ボールシステムを採用する場合(全国大会準決勝・決勝等)は、同様に扱う。

*1 ボールシステムの場合も、できる限り、およそ8秒のテンポでサービス許可をすることが大切であることから、以下について選手・チームスタッフに要請していく。

①ボールを拾いに行く場合は、速やかに一人で行う。

②相手コートに返球する場合は、安全に注意しながら素早くころがして返球する。

③次のサーバーは、相手からの返球を待たずにサービスゾーンに移動し、ボールを待つ。

*主審は、ボールがサーバーに送られる間に、両チームがプレーする準備をしていることを確認し、サーバーがサービスゾーンでボールを保持したら、直ちにサービス許可のホイッスルをするように心がける。ただし、8秒よりも早くサービス許可のホイッスルをすることのないように注意する。

上記3、4について

再発を防止するためにも、選手(ゲームキャプテン)が理解しやすい、平易な言葉で指導する必要があるが、指導のために多くの時間を割くことは避けなければならない。

5 主審(1st REFEREE)・副審(2nd REFEREE)の責務に関する事項

23.3 <主審の>責務 (RESPONSIBILITIES)

23.3.2 試合中、主審は次の権限を持つ。

23.3.2.3 次のことを判定する。

i) サービスボールや3回目のヒットされたボールが主審側のアンテナ上方や外側を通過したとき。

24.3 <副審の>責務 (RESPONSIBILITIES)

24.3.2 試合中、副審は次のことを判定し、ホイッスルしてハンドシグナルを示す。

24.3.2.8 サービスボールや3回目のヒットされたボールが副審側のアンテナ上方や外側を通過したとき。

(注)

- 1 サービスボールや3回目のヒットされたボールが主審（副審）側のアンテナ上方や外側を通過したときに、主審（副審）はホイッスルして、ボール“アウト”のハンドシグナルを示す。
- 2 副審はサービスボールがヒットされた後、ボールの軌道を確認する。

中体連も同様に扱う。

6 その他

1 コート上に6人の選手がいらないのに、サービス許可のホイッスルをしたとき

コート上に5人だけ、または7人の選手がいるときにサービスのホイッスルをした場合、およびラリーが始まったり完了した場合、主審はそのことに気づいたら直ちに罰則なしにラリーはやり直さなければならない。

2 5回の選手交代を終えた後に、2人の交代選手が選手交代ゾーンに入ってきたとき

副審は監督に1組の選手交代だけが可能であることを伝え、どちらの選手交代を行うかを尋ねなければならない。そこに遅延がなければ他の選手交代は不当な要求として拒否され、記録用紙に記録される。

3 チームがサーバーについて審判団より誤った情報を与えられたとき

そのセットが進行した後に誤りが発覚した場合、誤った情報が与えられた時点の状態にラインナップを戻し、得点も誤った情報が与えられた時点まで戻す。タイムアウト、TTO、罰則はそのまま有効とする。これらの事実は記録用紙に記録されなければならない。

中体連も同様に扱う。